

補助金申請に挑戦してみましょう！

(革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金)

今回も、「革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」に関して、
前号の<書類作成の進め方> ●その1からの続きをご説明させていただきます。

<書類作成の進め方>

●その2：将来の展望（本事業の成果の事業化に向けて想定している内容及び期待される効果）

事業の成果が寄与（想定）する具体的なユーザー・マーケット及び市場規模等について、現在の市場規模等を踏まえた、成果の価格的・性能的な優位性・収益性等を記載。

◆本事業の成果が寄与すると想定している具体的なユーザー、マーケット。

市場規模等について、その成果の価格的・性能的な優位性・収益性及現在の市場規模も踏まえて記載してください。

◆本事業の成果の事業化見込みについて、目標となる時期・売上規模・量産化時の製品等の価格等について簡潔に記載。

必要に応じて図表や写真等を用い具体的にかつ詳細に記載してください。

◆【革新的サービス】「革新的なサービスの創出・サービス提供プロセスの改善を行い、3～5年計画で「付加価値額」年率3%及び「経常利益」年率1%の向上を達成する計画」の根拠を具体的に記載。

◆【ものづくり技術】「革新的な試作品開発・生産プロセスの改善を行い、3～5年計画で「付加価値額」「経常利益」の増大を達成する計画」の根拠を具体的に記載。 会社全体の事業計画（表）における「付加価値額」「経常利益」等の算出については、算出根拠を明記してください。

<申請書を作成する際のポイント>

●数値やデータ、図、写真を多用する。

*最近、〇〇のニーズが高まっている。

⇒何故、ニーズが高まっているのか、理由を記載

⇒実際に高まっていることが分かるデータグラフを掲載

*製造する商品は、不良品により廃棄する商品が多い。

⇒何故、不良品が発生するのか？

⇒全体の何%の発生率で、損失は年間になるといくらになるのか？

⇒不良品となってしまった商品の写真を掲載

*新規市場に参入することで、売上げ向上が見込まれる。

⇒市場規模は？

⇒売上はどれくらい上がるのか？

⇒競合他社は？

●審査員は複数いる

⇒技術面と事業化面を審査する審査員は別。

⇒短期間で多くの申請書を審査するため、必ずしも全ての文章に目を通しているとは限らない。

⇒それぞれの審査員の点数により、上位3～4割が採択

⇒初期よりも申請書作成の精度が非常に上がっているため、

以前採択された企業の申請書と、同じような申請書を書いても通らない。

最新 ものづくり補助金情報

中小企業庁 補助金 1,000億円 1万社支援を復活

経済産業省・中小企業庁は2017年度補正予算で、中小企業・小規模事業者を対象とした「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援事業（ものづくり補助金）」で1000億円を計上。

補助上限を1000万円とし、3年ぶりに1万社支援（16年度補正での採択数6157件）を復活させます。18年2月中旬に公募を始めます。企業間でデータ連携する場合は200万円を上乘せし、設備導入時の専門家活用も支援。生産性向上につながる設備投資を後押しします。

今回、「認定経営革新等支援機関」との連携を要件とし、採択後から終了後5年間のフォローアップを求めることで成果を可視化します。

今回は「第4次産業革命型」に設定していた利用上限3000万円を廃止。

①中小企業・小規模事業者の約1万社を支援

ものづくり・商業・サービス補助金の全体規模を拡大しつつ、基本的な補助上限を1,000万円に

②事業類型における「企業間データ活用型」の創設

複数の中小企業者が連携し、事業者間でデータ・情報を活用、連携体として新たな付加価値の創造や生産性向上に取り組む事業を支援

A社・・・1,000万円	} + 200万円 × 3 = 600万円 (連携体内で配分可能)
(3社連携の場合) B社・・・1,000万円	
C社・・・1,000万円	

③専門家を活用した生産性向上を支援

生産性向上に効果的な設備導入を行うため、機械設備などの導入と併せて専門家を活用する場合に補助上限額を30万円アップ

④認定支援機関による採択後のフォローアップ体制の強化

申請時に認定支援機関との連携を要件とするとともに採択後から事業終了後5年間のフォローアップを求め、事業の成果（事業化状況、付加価値額など）を見える化

「審査」という過程がある以上、採択されやすい申請書類とそうでない書類が存在するのは事実です。

次回は「審査項目」をご理解いただき、更に採択されやすい申請書類の作成ポイントをご説明させていただきます。

【会社概要】

株式会社中央ビジネスグループ

代表取締役 太田 智子(学術博士)

経営革新等支援業務認定支援機関

〒540-0036

大阪市中央区船越町一丁目6番6号

レナ天満橋4F

TEL 06-6943-4412

FAX 06-6943-4414

E-mail : promotl@gold.ocn.ne.jp

URL : http://www.chuo-business.com

設立:平成23年4月(平成3年6月創業)

資本金:500万円



株式会社中央ビジネスグループ 代表取締役 太田 智子

中央ビジネスグループ代表取締役として、ISO認証取得、Pマーク取得、不動産業、運送業、環境、介護、法人設立、NPO法人設立など幅広い分野においてコンサルティング業務を展開する。特に補助金・助成金の申請に精通し、成功報酬による代理申請業務もおこなっている。複合材料分野で博士の学位を取得し、自動車会社とともに材料開発の産学連携事業にも取り組む。その後伝統の匠の技の解析研究に参画し、それを発展させ独自におもてなし(接遇)の定性的・定量的分析による数値化を行い、業務にフィードバックすると同時に多くの研究論文として発表している。

【経歴】

- ・京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科博士課程前期/後期 先端ファイブ口科学 専攻修了 学位取得 博士(学術)
- ・タイRMUTT大学において大学院生を対象に講義担当
- ・ポーランドで開催される第5回国際会議 「Managing Enterprise of the Future」の国際委員就任
- ・2014年に開催された第4回高品位介護シンポジウム実行委員長
- ・2016年カナダで開催されたHCII学会では1つのセッションをまとめるチェアマンを務める
- ・2017年カナダで開催されたHCII学会でOMOTENASHIセッションをまとめるチェアマンを務める
- ・2017年8月に開催される「おもてなしとその応用国際会議」の実行委員長を務める
- ・京都工芸繊維大学大学院 講師